心のふれあう明るい町を

青年のふるさとづくり

わが国はこれまでの高度経済成長の時代から、低経済成長への転換期を迎えています。

しかし、かっての急激な高度経済成長と技術革新の蔭には、人々は心の豊さを失ったといわれ、社会生活の上でもいろいろな好ましくない現象が生じているようです。

これを、いかに改め失なわれた真の人間性を回復し、心豊かな社会を形成していくかということは、今日の社会にとって大きな一つの課題といえると思います。

その課題解決にあたって、社会教育の果たす役割は大きく、重要な問題なのです。

現在では、社会教育団体を中心にボランティア活動が進められています。特に、子供会4Hクラブ、青年団の青少年が実施している。〝ふるさとづくり〟運動は「伝統文化の継承」と「生活環境を豊かにする」という二つの領域からそれぞれの地区において活動を展開しています。

その活動をとおして、青少年相互の連帯感と愛郷精神をはぐくむとともに、地域形成者としての役割と自覚を高めお互いに、健全な精神を育てつつ、さらには、この青少年活動を契機として、町民の皆様がなんらかの形で「新しいふるさとづくり」に参加されるようにと願うものです。

このような自然環境に合った町づくりをやろうではないかと提唱し、各支部ごとに話し合いを進め、日曜日や夜に、色々な作業の準備をして、野外実践活動と孝女千代の人形劇活動にはげんでいます。

※明るく美しい町づくり活動

現在までの活動状況は次のとおりで、各方面から大変よろこばれております。

◎ 清掃美化活動

無人駅で管理が不十分な津奈木駅の樹木の手入れ、花壇の設置。千代塚公園と長浜海水浴場一帯の清掃、花の植付。国道三号線の空カン払い、ムクゲ樹への施肥。

◎ 道路標識、標語板の製作設置活動

七支部ごとに、設置場所をリストアップし、夜、中央公民館に集まり、板切れに、トーチランプで焼きを入れ、ニスとペンキで案内板、交通安全自然愛護、親切の標語板を「町内」に三百二十六ヶ所に設置。

◎ 孝女千代人形劇活動

孝行者であった千代の話し

▲各支部代表者により作業日程方法などの研究。

わたし達の手で

雨の日も、風のパンチにもビクともせず、夏の暑さにも不動の姿の重盤岩と、嘉永年間に架設された県指定の文化財「めがね橋」は、共に石の芸術品で、天と地に良く調和して、道行く人々の心をなごませるばかりではなく、つなぎ川のせせらぎと、重盤岩自然林の中から聞こえてくる小鳥の声は、津奈木町の平和を象徴しているかのようです。

海岸線は、リアス式海岸で県立公園の指定を受け、風光明媚で、温暖な気候風土に包まれています。

青年団、4Hクラブでは、

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表311）番
編集　編集委員会
印刷所　旭印刷所
電話（水俣）③4101番

交通三悪をなくそう

去る、二月三日未明、上下門の国道三号線において、若者の無暴な飲酒運転、スピードの出し過ぎによって、センターラインを越え、大型トラックと正面衝突により、二人即死、救急車で病院に運ばれてから二人が亡くなり、一瞬にして、将来ある若者が四人も帰らない悲惨な事故となったのです。二月五日、町では緊急交通安全対策会議が開かれ、事故防止対策を協議し、①町報等で安全意識を啓発する②地区ごとにドライバーの懇談会を開く③青年団等の組織と若者の事故防止について話し合うなどを決めました。

青年団、4Hクラブは、津奈木町の青年の事故でなかったにしろ、もう二度とこのような事故を起してはならないと各支部で話し合いを進め、三月六日、午後七時から十時まで〝青年交通安推進大会〟を各機関の後援を得て中央公民館ホールで開かれました。警察署の協力で、映画（路上からのレポート）を上映後、二月三日の事故状況説明があり、質疑に入り、最後に交通三悪の**飲酒、スピード、無免許運転**を絶対やらない運動を採択して終了した。

水俣警察署より2月3日の事故状況を聞く青年達。

去る二月五日、熊本市の郵便貯金会館において、実演発表し万雷の喝采を受け、皆の笑顔がキラキラ輝いていました。

◎ その他の活動

○赤崎日羅将軍神社祭り
○大泊恵比須さん祭り
○交通安全祈願もちつき配布
○ふるさとづくり映画会。

赤崎青年団が、折り畳み式の舞台（長四m巾一・五m高二m）を製作して、千代青年団が紙ネンドで人形本体、布で衣裳、小道具を作り劇練習を続けています。

新一年生おめでとう

昭和五十二年度新一年生は津奈木小五十二名、赤崎小十七名、平国小十一名の合計八十名。

みなさんおめでとうございます。

小学校の皆さんは勿論、中学校の生徒諸君、青年団、婦人会及びご父兄の皆さん全員でこの新一年生の生長をを見守りながら立派に育てて行こうではありませんか。

氏名次の通り（敬称略）

部落名	新入生名	保護者
津奈木小学校		
竹中	山崎　和恵	秀雄
同	橋本　律子	特男
染竹	松永　典子	尚盛
同	鶴野　健一	富人
同	鶴野　尚美	賢二
同	松田美友記	豊年
同	松永　達也	進
浜崎	寺川　剣治	敏夫
同	林　裕二	生也
同	木戸富士夫	範雄
桜戸	前坂美葉里	庇
同	山口　修二	敦
同	白坂　和洋	松雄
町中	財部　志帆	洋子
同	山下　尚美	益生
同	深水亜由里	心英
同	大田黒有香	ミヨカ
同	財部　道治	初義
町中	山本　美和	美千代
新川	川添　孝英	耕生
同	西川亜也子	裕
古川	山本　勝広	兼次
同	柳迫真智子	洋児
同	竹本　康弘	茂人
大泊	柳迫　博孝	八郎
同	新立　健一	茂生
同	佐々木良子	正威
中尾	谷口　徹也	徹
同	谷口津也子	徹
同	溝口　朗子	浩平
同	福田　美香	健蔵
中尾	山崎　伸一	和美
同	森下　育美	武明
古中尾	沢田真記子	正勝
倉谷	丸山　弘	勇
同	堀田　美和	信雄
内野	秋田　貴子	良一
同	藤井　真子	義治
上下門	間崎　功晃	敬一
同	坂本由記美	昭一
同	坂口　信行	富行
同	福崎由紀夫	靖夫
同	船場　一三	善弘
川内	下川　隆幸	秀喜
川内	下川　敬子	吉光
同	平松　江美	康任
同	前田　良一	克美
小津奈木	永里浩美	正好
同	斉藤　恵子	武
同	篠原　俊二	政利
同	永松由佳理	真人
同	小島　泰治	利治
平国小学校		
福浦	神子あゆみ	允
同	福山　美穂	貞雄
同	福田　珠美	富士男
同	福田　征也	祐二
平国上	長浜　伸二	純一
同	平野俊一郎	俊次
同	松本由紀子	行雄
同	長浜　直美	メイ子
平国下	野崎　誠一	忠次
同	浜田　忍	一広
同	浜田　光朝	秋雄
赤崎小学校		
日当	伊藤　由美	富雄
同	伊藤　文雄	勝一
同	伊藤　裕一	義治
同	高木　賢史	淳一
同	林田　久志	富男
同	松田　猛	吉猛
同	森山佳寿美	良一
同	森本　伸也	東市
日添	岩崎　裕香	清
同	諫山　賢治	弘文
同	佐々木博美	満雄
同	佐々木博美	次人
同	高木伸一	祐次
同	高木宮子	孝美
同	林田てるみ	造
同	林田　直美	武弘
同	開田　美	直

紙芝居や人形劇で連帯の輪を

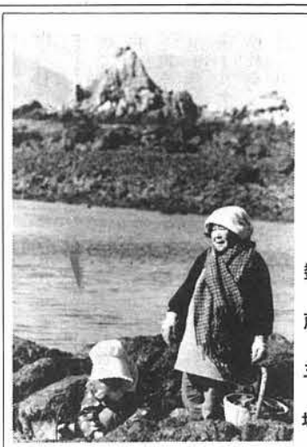
中学生が実践学習

女子中学生数名が保育園のホールに入ろうとすると、園児が、ワーツとかけよって喜びを体一杯に表わして出迎えた。これは園児達に紙芝居を見せるためにあらわれた一風景である。

中学校では、三年生の家庭科保育学習に、津奈木保育園等をおとずれ、西弘子先生の指導で、五六人のグループ毎に、自分達で創作した「紙芝居や人形劇」等で実習を行い園児達から喜ばれています。

二三人残りて汐の満ちんとす

数藤五域



町P連第一回研修会開催さる

町内小・中学校四校では予て、郡・県・日Pと縦の連携はあるが、町内の連携がなかったため、昨年十月、津奈木町PTA連絡協議会が結成されたもので、さる二月十一日津奈木小学校体育館で開催、午前中「地域におけるPTA活動」を通して、湯浦中学校教師、高野寿賀雄先生の講演午後は四分科会に分かれ、熱心な話し合いがなされた。

最後に「もう一度子供を見なおそうではないか、そしていつまでもその子の心にのこる言葉をのこそう」という意味の講評があり、午後三時半閉会しました。

編集後記

○札は誰が拾ってくれるか。

札はいまフワフワ宙に浮いています。早く引き取って暖かく育ててやりましょう。

○おさんじょ。の話しのような民話を拾い集めておきたいものです。

○ごみの話。これこそ農中先生が足で書いたものです。

○津奈木の将来は明るい。それは青年団がすばらしいからです。一頁をご覧下さい。

○老人優等生。十回にわたって取り上げられた方は、人間としての優等生です。

○えと。「ほんけがえり」とか「還暦」とは、六十年で生れたときの「えと」に還ることだとは知っていますがそのからくりは、あまり知られていません。じっくりお読み下さい。

○館報のお気づきは。大小とわずお聞かせ下さい **岡松**

肥後狂句

堀双岳選（順不同）

やめたア・こるから先ア鉄条網。
次から次・結婚式のつかえとる。
笹岳

次から次・アパートの建つニュータウン。
やめたア・姥孝行の甲斐の無ア。
拙者

次から次・もう体がもてんばな。
やめたア・まアだ子供がおづうどる。
小茶

次から次・女中三人はらませて。
やめたア・銭やった上きたわるる。
双岳

やめたア・云うてきくよな奴て無ア。
次から次・値上げ法案目白押し。
岳泉

次第

●神だのみ　●内輪もめ

四句以内三月末日まで公民館宛。初回の人は住所をお知らせ下さい。

より美しく ごみの話

記者　熊本県では県民総ぐるみで「美しいふるさとづくり」にとりくんでいます。津奈木町でも青年団が中心となって「美しい町づくり」に努力しています。

今年は、この「美しい熊本づくり」実現のため、まず『ごみとたばこの吸いがら等捨てない運動』を展開していますが、それ程、町は汚れているのでしょうか。

列車を止めたビニール

堀二雄　汚れどころか、ビニールが列車を止めたことがありますよ。

記者　それはまたどんなことです。

堀　津奈木トンネルの中で、機関車が農業用廃品ビニールを頭からひっかぶり、前方が見えなくなって立往生したのです。びっくりしましたね。

たばこから火事、し尿で消火

堀　国道三号線の津奈木トンネル、千代塚間で、私の記憶だけでも二回たばこのすいがらから火事があっています。一度は通りかかった衛生車が運搬中のし尿放出で消し止めました。

頭から弁当がらや空缶の雨

農中幸男　ドライバーによるたばこやゴミの投げ捨てにはまことに困ります。私は三号線沿いに田んぼを持っておりますが、去年は、オロナミンびんの破片で足を切り、一週間程仕事を休んだことがあります。また、田んぼが三号線の道下になっているので、そこで仕事をしているのが見えないのか、ドライバーが、弁当がらや空缶を、頭の上からあびせかけることがあります。まことに危険千万です。

田植前、田んぼのゴミを処理していますが、僅が百米ばかりの三号線沿いに、空缶だけでも、毎年肥料袋一ぱいはあります。

一人はみんなのために みんなは一人のために!!

去る二月三日、津奈木町赤崎会館において、県教育委員会主催により、芦北郡内各町及び水俣市より約五十名の参加を得て、公民館活動促進事業研究集会が行なわれた。

これは、部落公民館を中心に地域の住民が「うるわしいふるさとづくり」はどのようにしたらよいか。と言うことであり「公民館活動は何故必要になってきたか」の説明のあと、上下門公民館長（区長）田口敏男氏外各町の方に事例発表をいただき「地域課題の設定におけるリーダーの役割」についての分科会があり、それぞれの地域における問題点等について、話し合いがなされた。

＊　＊　＊

川に三百六十個の空缶

記者　町長さんは、川に捨てられた空缶を拾われたことがあるということですが…。

町長　通勤途中に見る川の中の空缶が気にかかり、先年の夏、妻と二人で、川に入って長盤岩眼鏡橋から、中学校前の橋までの間の空缶を拾ったことがあります。橋の上から見たときは、八十個位かなと思ったが、拾ってみて、三百六十数個あったのには全く驚きました。

記者　ゴミ集収車がまわるようになってからは、川も大分きれいになったと言いますが、写真のように、まだ川に捨てて平気でいる不届者が絶えないのは残念なことですね。

海の方はどうでしょうか。

海岸の不燃物トラック二台

赤崎婦人会長　赤崎婦人会では、ここ数年、毎年初夏に、校区間の海岸十数粁の清掃をやっています。可燃物は、重油をかけたり等して焼却しておりますが、毎年トラック二台分位の不燃物が集まります。

取る（盗る）ことで自然破壊

町長　ゴミやたばこの吸いがらを捨てない運動も大切だが、取ることによって「美しいふるさと」が壊されていることも見逃がすことはできない。

ゴト山の蘭が姿を消してから久しいが、長盤岩をはじめ、塩迫、中良、古中尾、倉谷等、どこの岩山に行っても、あの美しい岩松が見られなくなった。そして、今は「えびねらん」が絶滅の危機に瀕している。

山の帰えりに、趣味で、一～二本、持ち帰えるのまで、とやかく言うつもりはないが、開けば、他人の山から、無断で掘り出して、商売にしている者があるという。以ての外のことである。木斛、もちの木等の盗掘に至っては、言語道断である。

◀海岸にうちあげられたゴミ

記者　まことに同感です。

美しい町づくりは捨てない取（盗）らない両面から

町長　お互いに、この町を汚さないばかりか、美しい自然を壊さないように、両面から美しい町づくりに励もうではありませんか。

記者　全くその通りですね。

どうも皆さん、いろいろお教え下さいましてありがとうございます。

老友会長　私は、京都で、バスを待つ間のつれづれに、自然と手はたばこに行ったが、一本の吸いがらも落ちていないのに気付き、たばこ吸うのを取りやめて、流石京都と、感心したことでした。津奈木も、こうした町にしたいものです。

編集　農中三澄

「えと」

今年を昭和五十二年というのは日本流、一九七七年というのは西洋流、丁巳年というのは昔の中国流か、丁巳年と書くのは中国流としても、これを「ひのとみ」と読むのは日本式。

丁は十干の一つ、巳は十二支の一つ。今は昔、中国では万物は、木・火・土・金・水の五つの元素からできているとされ、この五元素に陽・陰（兄弟）を配して十干とした。これがすなわち甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸。これを表にし、日本式の読みがなをつけると次のとおりになる。

木の兄―甲（きのえ）
　　弟―乙（きのと）
火の兄―丙（ひのえ）
　　弟―丁（ひのと）
土の兄―戊（つちのえ）
　　弟―己（つちのと）
金の兄―庚（かのえ）
　　弟―辛（かのと）
水の兄―壬（みずのえ）
　　弟―癸（みずのと）

十二支は、一年十二か月にそれぞれ天象や気象や年中行事にちなんだ符号をつけたもの。即ち、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥がそれ。これを日本式に読むと、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥。

この十干と十二支を組み合わせて暦年を表わし、丁巳年とか丙午年等という。十と十二の最小公倍数は六十であるから、六十年を一周期として、六十一年目には同じ「えと」がめぐり来ることになる。

だから今年生れた人は丁巳年生れで、六十一才のときはまた丁巳年となる。これがすなわち、還暦である。

禮は誰が拾ってくれるか

津小校長　芥川正則

子に願う
あいさつできて健康で
感謝の心豊かに育てと

短かい言葉でありますが、わが子に願う親の真実の心情がよく表現されています。

わが子がすこやかに育てと願うことは至極当然でありますが、それと同じように、あいさつができて、心豊かで、感謝の心をもち、素直な子どもに成長することを願うことも、また親として当然のことでありましょう。

（親しき仲にも礼儀あり）という言葉を耳にすることも絶えて久しいことです。

礼儀―人間が人間として認められる最底の条件であるといわれています。

戦後三十年を経た今日、価値観の多様化に伴ない、敬愛感謝の念が失なわれ、相互間の不信感を増大しています。

「火を見たら火事と思え」は大へん結構だと思いますが、「人を見たら泥棒と思え」の世の中はご免です。

近頃知育偏重の教育の行き過ぎということが大きく取り上げられていますが、人間形成の中核である徳育の重要性に言及されないのはいかがなものでしょうか。

「礼儀は百行の基」であり、人間社会の最高の道徳であると確信しています。

社会の秩序も礼儀を基盤として成り立っています。礼儀のない社会に秩序とけじめは存在しないと思います。そのような社会（家庭を含めて）は、やがては混乱を招き、崩壊の道をたどるであろうという不安感をもつ一人であります。

教育にたずさわる私どもも「礼儀は百行の基」であるとの認識に立って、今日の重要な課題として、強力な推進をはかっています。

「衣食足つて礼節を知る」もうそろそろ礼節を考え直す時ではないでしょうか。

追記

二月十九日の熊日新聞社説の「しつけ不在」のご一読をおすすめいたします。

私説　老人優等生 (10)

※稿を終るにあたって!!

五十年九月の第一号以来十号という訳で「余り永いも何とやら」ここらで一応稿を終りたいと思う。最初先ず考えたことは、

(1)八十歳以上で健康な方。

(2)趣味や希望に生きがいを感じつつ常に前向きで、家庭、社会への役割を持っている。

(3)地域老友会へ積極的である。

以上三項目を基準としたが、何分視野が狭く管見のそしりを受けても致し方ないと自認している。それとなるべく表に出られない方をと思ったので現役会長は一応ご遠慮いただいたが、稿を終るにあたってここでご登場願うことにする。

※多士済々の会長陣

⊙永里勝人さん（小津奈木）会発足当初からだから十一年という訳で会長陣では最年長の八十七歳であるが、みかん山作業は一手に引受けるという元気さである。

先般の町内ゲート大会には三番打者として活躍、津奈木ゲート界でも最年長だろう。

自転車事項で歩行が意にまかせないが、ステックを振られる姿はまだまだたいしたものである。

⊙吉野藤寿さん（赤崎第一）千々岩さん引退のあとを受けて第一会長となられた吉野さんは永里さんより年下の八十六歳である。ゴト山史蹟調査の折吉野さんの健脚にはほとほと驚き入った。

選手兼監督として日当ゲートボールチームを引っぱっていかれる。会長の外親和会の会計も担当し一糸乱れぬ会計事務をとり、例会には司会兼進行係として、林田会長と協力、今日の赤崎老友会発展の一翼をになっていられる。

⊙林田義人さん（赤崎第二）「林田さんといえば老人会が連想され、老人会といえば林田さんを思い出す」と誰かがいったように津奈木の老友会と林田さんは切っても切れない関係で、老友会の育ての親に会員と談し、半先遂行会の運営にあたっていられる。

昨夏来健康を害していられるが早く氏の温顔に接したいものである。八十二歳。

⊙山崎直次郎さん（古中尾）津奈木を花いっぱいに芦北を花で、更に県全体へと山崎さんの花運動は拡がる。年々生産される数万本のムクゲ、カンナは県下至る所で道行く人を喜ばせる。広い趣味と達大な希望、徹底せる奉仕精神とその活動、それは八十一歳の山崎さんを益々多忙と健康へ導く感がする。熊日緑のリボン賞日本顕彰会の全国表彰等数々の栄与は功績を物語る一端で津奈木の「花神」山崎さんの健康を祈るのみである。

老連会長　**永松登弥**

辻の大山尉狐

太右ヱ門の一人娘お里は、浜辺の漁師の家に、お嫁に行っている。

太右ヱ門は、毎年欠かさずに、二十三夜待ちの夜は、お里の家に二十三夜祭りに、行って、ご馳走になるのを楽しみにしていた。

長話は二十三夜待ちに、と昔から言われている位で、太右ヱ門も、ゆっくりした気持ちで、心からくつろいで、したたか酒を呑み、腹一杯ご馳走を喰べて、いとま乞いをした。

お里の心づくしのおはぎと、竹の皮包みの煮しめを、振り分け荷物にして肩にかけ、とてもよい気色で、鼻うたうたいながら、ヨイドン池の近くにさしかかった。

ヨイドン池の、土手の茅やぶ中には、今夜を待ちに待ったお山尉が、今に見ておれと、復しゅうに燃えた目を青白く光らせていた。

太右ヱ門が、四～五間手前まで近づいた時、ヒョイとお山尉が馬路にとび出した。びっくりした太右ヱ門、目をこすってよく見ると、お山尉がつわぶきの葉に、馬ン糞を捨って入れている。

「コラコラお山尉、馬ン糞をおはぎと、すり替ゆるつもりかい。子供ばしのごつ、だまされはせんぞ」といきなり太右ヱ門が走りよると、お山尉の体が大きく一回トンボ返りをしたと思うと、パッと消えてしまった。

太右ヱ門はハッとして、きょろきょろと見廻わしていると、四～五間先に人が居る。而も自分と寸分と違わぬもう一人の太右ヱ門が立っている。おのれお山尉奴と近づくとヒョコヒョコと歩き出す。

走れば、前の太右ヱ門も走る。止まれば止まる。二人の太右ヱ門が夜更けの辻の馬路を、追いつ追われつ登って行く。

やがて、太右ヱ門の家の近くなった。

主人の帰りを待つかのように、灯りが見える。

やれやれとホッとした油断のすきに、もう一人の太右ヱ門は、見えなくなっていた。

津奈木民話 (4)

佐々木　緑